



2021年7月27日に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました！ここでは、世界文化遺産登録までの歩みや構成資産などをご紹介します。

1 世界文化遺産に登録されるまで

縄文遺跡群の世界遺産登録への挑戦は、2005年10月に三村知事が青森県内の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指すことを表明したことに始まります。2006年に文化庁が世界遺産暫定一覧表への記載案件を公募することを表明し、青森県は「青森県の縄文遺跡群」を、秋田県は「ストーンサークル」の提案書を文化庁に提出しました。両提案は、文化審議会における審議の結果、継続審議となり、2007年に行われた「北海道・北東北知事サミット」において4道県で共同提案することを合意し、再度提案書を文化庁に提出しました。審議の結果、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として暫定一覧表へ記載することが決定し、2009年1月にユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載されました。

その後、4道県と関係自治体では、構成資産の検討や課題を整理しながらユネスコに提出する推薦書案の作成や機運醸成に取り組みました。2018年、文化審議会世界文化遺産部会は「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産国内推薦候補に選定しました。2019年12月に推薦が閣議了解され、翌年1月にユネスコに推薦書が提出されました。その後、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）の現地調査を経て、2021年7月27日に開催された第44回世界遺産委員会拡大大会において「北海道・北東北の縄文遺跡群（正式名称：Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan）」が世界遺産一覧表へ記載されることが決議され、国内初の先史時代の世界遺産が誕生しました。



パブリックビューイング

チャレンジを始めた2005年から16年。世界遺産となった縄文遺跡群は、自然とともに生き、平和で協調的な社会を形成していたことを物語り、今日のSDGsにもつながる、私たちへの大切なメッセージと示唆を与えてくれます。今後は、縄文遺跡群をしっかりと守り、その価値を未来へ伝えていくための取組を推進していきます。

2 ここがすごい！世界で認められた価値

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、約 15,000 年前から約 2,400 年前にかけて、北東アジアで発展した採集・漁労・狩猟を基盤とした定住の開始・発展・成熟の過程を示し、農耕社会以前の先史時代の人々の生活と精神文化を伝える点が評価され、世界遺産一覧表に記載されました。

○自然と共存しながら 1 万年以上も定住生活を継続したことを示す

北海道・北東北の地域は、山地、丘陵、平地、低地など変化に富んだ地形であり、内湾又は湖沼及び水量豊富な河川も形成されています。ブナ林を中心とする冷温帯落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では暖流と寒流とが交差し豊かな漁場が生まれ、サケ・マスなどの回遊魚が遡上するなど、森林資源や水産資源に恵まれていました。

人々は、このような環境のもとで食料を安定して確保することができ、約 15,000 年前に定住を開始しました。その後 1 万年以上にわたり、気候や自然環境の変化に合わせてながら採集・漁労・狩猟による定住を続け、道具や技術も発達させたことを示します。



三内丸山遺跡



漆が塗られた容器（是川石器時代遺跡）

○精緻で複雑な精神文化の発展を示す

北海道・北東北では、定住生活のごく初期から精緻かつ複雑な精神文化が発達しました。人々は、墓地をはじめ、祭祀・儀礼の場である捨て場や盛土、石を丸く配置した環状列石（ストーンサークル）などの施設をつくり、世代間、集落間で社会的なつながりを確認したとされています。



環状列石（小牧野遺跡）



土坑墓（是川石器時代遺跡）

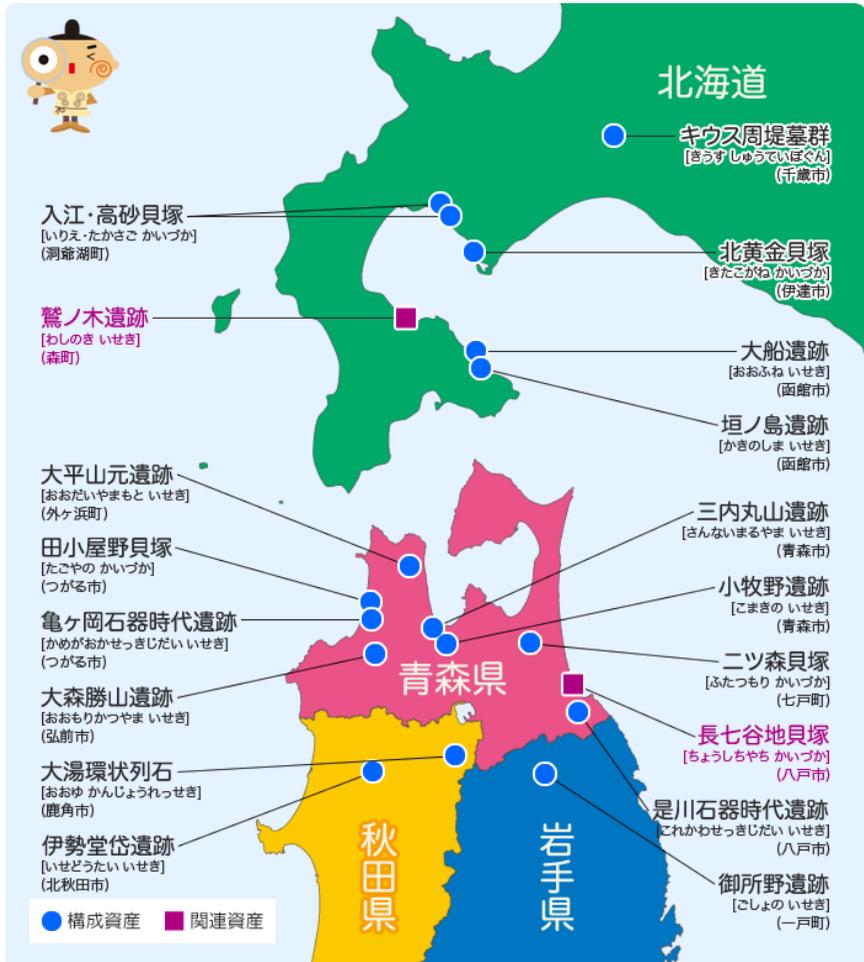


大型板状土偶
（三内丸山遺跡）

3 縄文遺跡群の紹介

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北海道6遺跡、青森県8遺跡、岩手県1遺跡、秋田県2遺跡の合計17遺跡で構成されています。また、縄文遺跡群の価値と密接に関係する遺跡(関連資産)が北海道と青森県に1遺跡ずつあります。縄文遺跡群を年代順にめぐる、エリア毎に巡るなどお気に入りの巡り方で、縄文一万年の旅に出かけてみませんか。

北海道・北東北の縄文遺跡群マップ



出典：北海道・北東北の縄文遺跡群キッズサイト JOMON ぐるぐる
(<https://jomon-japan.jp/kids>)

～青森県の縄文遺跡群～

特別史跡 三内丸山遺跡（青森市）

日本最大級の縄文集落。縄文時代の人々の生活や当時の環境がよくわかる。土器、石器、漆製品、土偶などが多数出土した。



史跡 小牧野遺跡（青森市）

タテヨコ交互に石垣を築くように配置された大型の環状列石を主体とする祭祀遺跡。まつりに使われた三角形岩盤も出土した。

史跡 大森勝山遺跡（弘前市）

岩木山麓にある環状列石を主体とする祭祀遺跡。冬至の日には岩木山の山頂に太陽が沈むことが確認されている。まつりに使われた円盤状石製品が出土した。



史跡 是川石器時代遺跡（八戸市）

美しい土器や土偶が多数出土。特に漆製品は優品が多いことで有名。低地から水場が見つかるなど、当時のムラの様子がよくわかる。

史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）

大型遮光器土偶が出土したことで有名。台地の上には多数の墓が作られており、大規模な共同墓地であった。墓から多くの副葬品が出土した。



史跡 田小屋野貝塚（つがる市）

数少ない日本海側の貴重な貝塚。ヤマトシジミが大半でイルカやクジラの骨も出土した。ベンケイガイ製貝輪の製作場所を考えられている。

史跡 大平山元遺跡（外ヶ浜町）

北東アジア最古級の土器が出土。土器は定住の開始を示し、縄文時代の始まりを考える上で重要。石鏃も出土し、弓矢の使用も開始していたことがわかる。



史跡 ニツ森貝塚（七戸町）

小川原湖を望む高台にある、東北有数規模の貝塚を伴う集落遺跡。上層と下層で貝の種類が変わるなど、環境の変化がよくわかる。

写真画像の出典：JOMON ARCHIVES 等